

第15部 刊行物

第1章 刊行物媒体の変化等

1990年代までは、札幌管区気象台をはじめ管内各官署にて発行された刊行物は紙媒体（製本等）であった。2000年代に入り、電子計算機（PC）の普及・高度化や、図や文字等を鮮明に再現するCDやDVDといった電子媒体の急速な普及により、紙媒体で製本するような刊行物はほとんどなくなった。

加えて、地上や地域気象観測データの原簿類を中心に、過去の紙媒体の製本・刊行物も、ページごとにExcelやPDFなどの電子ファイル形式として保存（複製・コピー）して（電子化、デジタル化とも呼ばれる）保管されるようになった。

2010年代に入るとインターネットも広く普及し、これまで紙や電子媒体で共有していた各種情報や目的別に整理された観測データなど、刊行物に相当する内容については、気象庁や札幌管区気象台、および各地方気象台のホームページにてそれぞれ公開・共有されている。

第2章 分野別調査研究の傾向

第1節 主な刊行物の変遷

50年前に発行された『札幌気象百年史』に掲載されていた主な刊行物として、気象官署と観測所の観測値を振興局（旧・支庁）別に気象概況や経過図などを加えて編集し、紙製本されていた『北海道気象月報』は、平成12年（2000年）1月の発行をもって終了した。

また、毎月の地震概況や火山の遠望観測と火山性地震などを内容とした『北海道地震火山月報』も、平成10年（1998年）に紙製本の発行を終了した。

昭和54年（1979年）6月に発行された『北海道地域火山機動観測実施報告』も、平成16年（2004年）の第24号の発行をもって終了した。

調査・研究の分野では、昭和40年（1965年）に『北部管区気象職員論文集』として、昭和55年（1980年）に『札幌管区気象研究会誌』と改称されて製本刊行されていたが、平成21年（2009年）からはDVDによる発行と気象庁内イントラネットを通じて、地域防災推進課（旧・調査課、気候調査課、防災調査課）において共有されている。

第2節 不定期刊行物等

昭和28年（1953年）に初めて『北海道の気候』を発行し、その後、昭和39年（1964年）には新平年値の採用による新版を発行した。その後「平年値は30年間の平均値として10年ごとに改める」という国際ルールに基づき、昭和48年（1973年）に改訂版を発行した。以降、昭和57年（1982年）、平成3年（1991年）に、10年に1度更新される平年値の改訂を基に改訂版を順次刊行してきた。

その主な内容は、気象官署ごとの官署履歴、観測統計から気温や降水、風、雪等に関する各月・年平年値やそれまでの極値、雪や霜に関する初終日の平年値や最早・晩、夏日（日最高気温25℃以上）や冬日（日最低気温0℃未満）等の平年日数なども記されている。特に平成3年（1991年）版は、海水関係の資料も充実している。

関連して、平成4年（1992年）には『北海道のアメダス統計』を発行した。前述の『北海道の気候』に類似しているが、アメダス観測点において自動で得られる観測値による30年統計であり、極値や平年値等が収録されている。

また、1970年代から1990年代にかけて不定期的に、かつ分野を問わないテーマを整理・深掘りした内容の『解説資料』が刊行されていたが、平成9年（1997年）12月の第24号の

刊行をもって終了した。

さらに、昭和25年(1950年)10月、従来発刊されていた『予報通信』『観測通信』を統合し、『札幌通信』として他部門の連絡事項を合わせた部内誌として創刊した。平成12年度(2000年度)から紙媒体での発行から電子化(PDF形式)へと移行し、平成18年度(2006年度)には『予報課ニュース』と統合を図り、発行形態もブログに切り替えた。ブログとしたことにより、寄稿が容易となり掲載記事のデータベース検索が行えるようになったが、ブログシステムの維持や印刷物としての管理の難しさ等からPDFによる発行に戻した。創刊当初は月2回の発行であったが、PDFへ戻すのと合わせて月1回の発行とし、現在(令和8年(2026年))も気象庁内イントラネットへの掲載によって本庁や札幌管区において共有されている。

(田辺 順一)

